

さくら市男女共同参画情報紙

らいき

第33号

2024.11.30

あなたらしく
生きられる
社会を目指して

ゆう〜

LIKE YOU

+X+ +X+

ちようどい!
さくら市

SAKURA CITY



男女共同参画の視点による防災

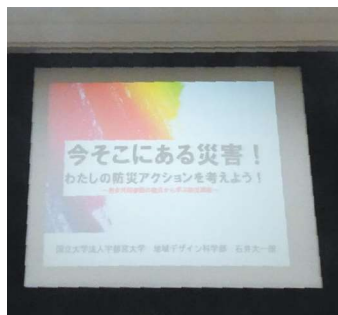
男性は仕事、女性は家庭というように性別で役割を分けることを、固定的性別役割分担意識といい、これにより災害時は問題が起こりやすくなります。また、地域の防災リーダーに女性が少ないために、育児や介護用品などの不足や、更衣室や授乳室がないなど、女性や子育て・介護者の要望が反映されにくいことが課題となってきました。災害時は、高齢者、障がい者、外国人などの多様なニーズも把握し、配慮することが必要です。日頃から、家庭・地域・職場での男女共同参画や多様性を深め、それぞれの視点を取り入れた防災対策に取り組むことが重要です。

パルティ公開講座



7月11日(木)にさくら市男女共同参画推進委員会で、「今そこにある災害！わたしの防災アクションを考えよう！～男女共同参画の視点から学ぶ防災講座～」に参加しました。

講師は宇都宮大学地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科 石井 大一郎教授でした。また、防災士ママクラブさくら 渡邊 文香氏(さくら市男女共同参画推進委員)と酒井 美珠季氏、栃木県防災士会理事 中川 享子氏による事例発表がありました。



参加した委員の声



現在、自治会・町内会の存続が危惧されており、打開策としては、女性や若い人たちに町づくりに参画してもらい、組織の再編等を含めた新たなイノベーションを生み出すことが必要とのお話でした。

地域防災計画については、誰かが作ってくれるものではなく、自分たちが自ら作るものであり、将来どうありたいのかを仲間と意識を共有し、自助力を高めることが必要とのことでした。私は県防災士会の一員ですが、防災力を育む第一は、地域コミュニケーションを日頃から如何に持つかに掛かっていると思います。自助・共助の気持ちを常に持ち、行動出来るようになりたいものです。

大橋克世 委員



石井先生のお話で、1人でもアクションを起こせば誰かが賛同し、それ以上のことができるかもしれない。小さなことかもしれないけど、それがだんだん広まるので1人でもアクションを起こして試みるのが大切、との言葉があり、身近で自分ができることを改めて考えるきっかけになりました。

防災士の中川さんは災害時のトイレのお話でした。災害時にトイレの話題をあまり耳にせず重要視していませんでしたが、現場では頻繁にトイレパニックが起きているそうです。被災者が災害時に欲しいものの上位にトイレが入っていることも知り、トイレの重要性を改めて考えさせられました。

最後に、「防災士ママくらぶさくら」として実践報告の場をいただき、今までの活動を発表させていただきました。ペットボトルランタンも皆さん興味津々で、私たちの活動を知っていただく良い機会となりました。今後も防災の知識を高めていきたいと思っています。

渡邊文香 委員

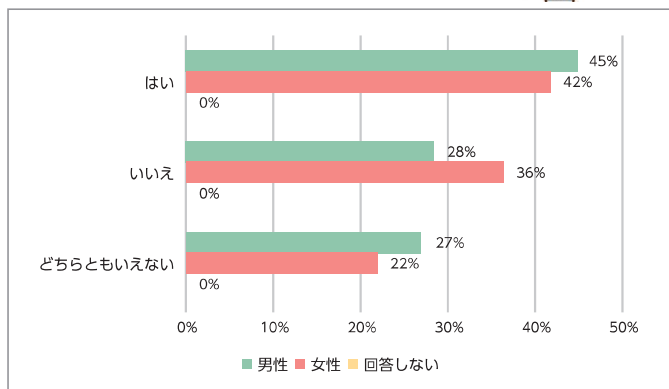


ゆめ！さくら博&福祉まつり 「男女共同参画の視点による防災」アンケート結果



問1

災害に備えて防災用品を準備していますか？



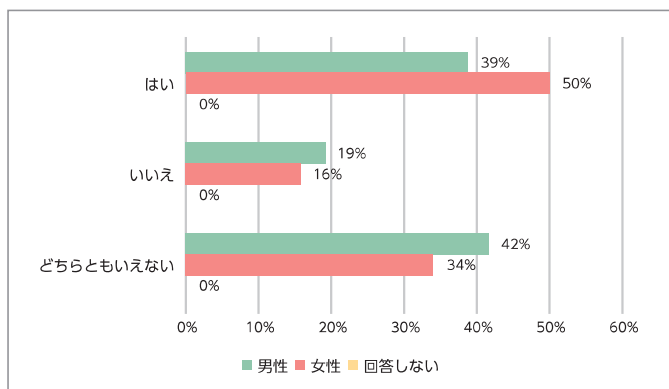
問1では、災害に備えて防災用品を準備しているのは男女とも40%台でした。どちらにしようか悩んで「どちらともいえない」を選択している様子も見られました。何をどのくらい準備したら「はい」といえるのか迷った方がいたことも考えられます。

問2では、女性は50%が「避難所へ行く」と回答したのに対し、男性は39%にとどまりました。

問3では、「避難所へ行かない、どちらともいえない」と回答した理由として、順位に違いはあるものの、上位3つは男女とも同じ理由でした。とくに女性は60%以上がお風呂やトイレに不安を抱えていることがわかります。実際に、災害時に避難所で必要なものとしてトイレが上位にあげられていたり、トイレに関する問題が起きています。

問2

避難指示が出たら避難所へ行きますか？
(避難経路が確保できている状況の場合)

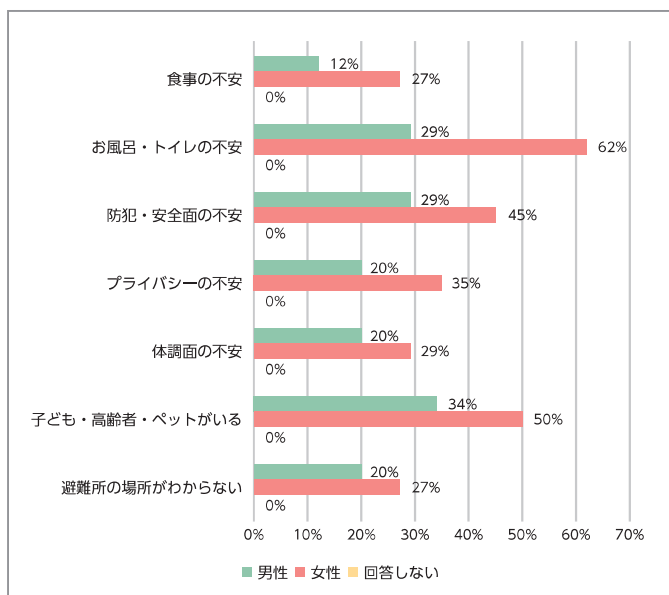


また、「避難所の場所がわからない」と回答した人が男性は20%、女性は27%いました。平常時から、避難経路や避難所の確認、家族と災害時の避難について話し合っておきましょう。

問3の数値を見ると、女性の方が不安や問題を抱えている方が多く見られます。こうしたことから、女性の視点を取り入れた避難所の運営が求められていることがわかります。

問3

問2で「いいえ」「どちらともいえない」と答えた理由は何ですか？(複数回答)



10月19日(土)に開催された、ゆめ！さくら博&福祉まつりで、今年のテーマ「男女共同参画の視点による防災」に関するアンケートを実施しました。アンケートには、199人(男性67人、女性132人)の方にご協力いただきました。ありがとうございました。





ゆめ！さくら博&福祉まつりに 参加した委員の声



今年はゆめ！さくら博と福祉まつりが一緒に開催され、ブースも多くにぎやかな一日となりました。私たちは、いい夫婦の日にあわせて県が作成した「とも家事」ならぬ「ともジカ」エプロンをつけ参加しました。

防災についてアンケートをとりましたが、「防災用品を準備していますか」の問に約40%の人が備えていると答え、反対に約30%が備えていないと回答し、身近に感じていない方もいるようです。用意したお菓子和バルーンがなくなるくらい多くの方に参加いただき、充実した時間でした。

大森陽子 委員

今年のゆめ！さくら博は初の福祉まつりとの合同開催。体育館内外に、たくさんの団体がぎゅぎゅっと集まって行われました。例年よりちょっぴり狭いスペースでしたが、始まってしまえばアンケートにもスムーズに答えていただけたようです。シールを貼るのはお子さんにもできるので、親子で参加している方もたくさんいました。参加賞のお菓子と風船も喜んでいただけたでしょうか？

ご協力、ありがとうございました。

上野幸子 委員



編集後記



防災の字を辞書で見たら「災害を防止すること」別の辞書には「地震・台風などによって引き起こされると予想される災害についての対策を講じること」とある。昭和32年発行の辞書には防災の文字が無かった。いつから言われたのか疑問が残るが、今年も地震・台風による豪雨など安心できる日本ではない。

関東大震災では、「家財に執着して路上に家具を搬出して進路をふさがれ死者10万のうち東京市58,000人」と伝えられている。

防災用品、あれもこれも必要と考えていると、簡易トイレまで気がまわるか心配になる。

「命があつての人生だ、何も持たず身体ひとつで逃げろ」と言われて育った私。正解のないあれも正しい、これも正しい、津波の時はテンデンコで逃げようと言う。旅先での行動も考えたいものです。

渡邊能辰 委員

さくら市 男女共同参画推進委員募集中

私たちと一緒に市の男女共同参画に向けた活動をおこなってみませんか？イベントの企画や情報紙の発行など、誰もが住みやすく明るいさくら市を目指して楽しみながら活動していきましょう！老若男女・国籍も問いません。ぜひ、あなたの力を活かしてください！

問 総合政策課 ☎681-1113

◆編集:さくら市男女共同参画推進委員会 ◆発行:さくら市総合政策部総合政策課

〒329-1392 さくら市氏家2771番地

TEL:028-681-1113 FAX:028-682-0360 E-mail:sogoseisaku@city.tochigi-sakura.lg.jp

